

ファミリーニュース

編集発行 カトリック一宮教会事務局広報委員会
〒491-0044 一宮市大宮1-7-1
TEL (0586) 73-4884
FAX (0586) 59-5884
ホームページ版



希望は欺かない

主任司祭 太田 実

カトリックの通常聖年は、特別聖年を除いて25年に一度開催されます。今回の通常聖年は、2024年12月24日に開幕し、2026年1月6日に閉幕します。

今回の聖年開催の大勅書の表題は「希望は欺かない」です。中央協議会のホームページ(<https://www.cbcj.catholic.jp/2024/07/24/30297/>)で前文を読むことができますが、その要約をお届けします。

「希望は欺くことはありません(Spes non confundit)」(ローマ5:5)と言って使徒パウロはローマのキリスト教共同体を励ましました。

希望は、(今年のクリスマスから始まる)聖年の中心となるメッセージでもあります。聖年は、ローマの四大バジリカを巡礼し、免償を受けることが中心となります。四大バジリカには聖年の門があります。教皇はローマへの巡礼ができず、それぞれの教区で聖年を祝う人を配慮します。

すべての人にとって、この聖年が、救いの『門』である主イエスとの生きた出会いの機会時となるよう教皇は望んでいます。

教会は、イエスと共に、いたる場所で、すべての人に「わたしたちの希望」を告げる使命を持っています。

大勅書は続いて、「希望のことば」(2～4)、「希望の道」(5～6)、「希望のしるし」(7～15)、「希望を求める訴え」(16～17)、「希望に錨(いかり)を下ろして」(18～25)という5つのテーマで構成されています。詳しくは中央協議会ホームページか、中央協議会が発行した冊子『希望は欺かないー2025年の通常聖年公布の大勅書』をお読みください。

「今より、希望に引き寄せられていきましょう。希望が、わたしたちを通して、それを望む人たちに浸透していきますように。わたしたちの生き方が、彼らに『主を待ち望め、雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め』(詩編27・14)と語りかけるものとなりますように。主イエス・キリストの再臨を信頼のうちに待ちながら、わたしたちの今が希望の力で満たされま

すように。わたしたちの主イエス・キリストに賛美と栄光が、今も、世々に至るまで。わたしたちの主イエス・キリストに賛美と栄光が、今も、世々に至るまで。」という祈りで教皇は大勅書を結びます。

教皇はローマへの巡礼だけでなく、各教区でも巡礼が行われることを希望しています。この勧めに従い、名古屋教区司祭評議会で検討した結果、教区内に巡礼教会を設置することを決定しました。先ずAGIFTにちなんで各県にそれぞれ一つの巡礼教会を指定します。それらは豊橋教会(愛知県)、大垣教会(岐阜県)、金沢教会(石川県)、福井教会(福井県)、富山教会(富山県)です。それと1月1日に被災した輪島教会と七尾教会、それにカテドラルである布池教会と名古屋教区発祥の地である主税町記念聖堂です。先回の巡礼の手帳にない巡礼手帳が発行され、巡礼の祈り、巡礼スタンプカードも用意されます。

名古屋教区の通常聖年開幕のミサは、12月29日、カテドラルの布池教会の9時30分から行われます。司祭は担当する小教区のミサを司式しなければならないので、参加できませんが、都合がつく信者、修道者はできるだけ当日カテドラルに集まり、共に祈るよう松浦司教は求めています。

わたしたちが祈りと行いが「この世におけるまことの希望のパン種となり、新しい天と新しい地を告げるものとなるよう」教皇と共に巡礼の歩み始めましょう。



聖年 (Holy Year, Jubilee Year)

聖年とは、本来は、ある一定の期間においてローマを訪れ、決められた条件に従って祈る信徒たちに、教皇が聖年の大赦 (the Jubilee) と呼ばれる特別免償を与える一年です。

平和と免償を祈る一年といえます。

この背景には、旧約聖書の「ヨベルの年」(レビ記 25.1~55 参照) の、土地の安息、負債の免除、奴隷の解放という50年ごとにめぐってくるヘブライ人の聖年の考えがあります。

教会の歴史に残る第1回目の聖年は、教皇ボニファティウス8世の命によって1300年に行われました。そして、ボニファティウス8世は、この時100年ごとに聖年を挙行することを決めました。しかし、14世紀の半ばになると、教皇クレメンス6世によって、50年ごととされ、聖年に訪れる大聖堂は、聖ペトロ大聖堂、城壁外の聖パウロ大聖堂(サン・パウロ・フォーリ・レ・ムーラ)、ラテラン大聖堂(サン・ジョバンニ・イン・ラテラーノ)とされます。

教皇ウルバヌス6世は、さらに聖年の間隔を33年にすることを決定しました。その理由は、イエス・キリストのこの世における生涯を想起するというものでした。

また、1373年には、教皇グレゴリウス11世によって、クレメンス6世が決定した3つの大聖堂に加えて、聖マリア大聖堂(サンタ・マリア・マッジョーレ)をも、聖年に訪れるよう義務付けられ、免償が得られるようになりました。

1470年、教皇パウロ2世は、さらに聖年の間隔を短くし、25年に1度聖年を挙行することを決めました。これは、すべての世代が大きな免償を獲得できるようにとの配慮でした。25年ごとに聖年が行われるようになった最初の聖年は1475年でした。この規定は、今日なお実行されています。

聖年のはじまりには、4つの大聖堂にある「聖なる扉(Holy Doors)」が開かれ、聖年の終わりにその扉は閉じられます。

25年ごとに行われる聖年の他に、主の死と復活を記念する聖年(近年では1983年)など、他の意向による特別聖年もあります。紀元2000年は、特に「大聖年」として祝われました。

補修積立金の報告

一宮教会の補修立献金にご協力いただきありがとうございます。ベトナム語、タガログ語のミサでもご協力いただいています。引き続きよろしく願いいたします。

◆現在の積立額(2024年11月24日現在)

¥

印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。



第2回サロンの会
2024.10.27



ベトナムの文化、教会の活動など
について話を聞きました



助祭候補の秋元さんが
来られました



有志による外回り掃除
2024.11.10



すっかりきれいになりました



七五三祝福 2024.11.17

お菓子とメダイをプレゼント

今後の予定

| | | | |
|-----------|---------|------------|---------------------|
| 12月22日(日) | PM5:00 | タガログ語ミサ | PM6:00～クリスマスパーティー |
| 12月24日(火) | PM6:30 | クリスマス夜半のミサ | |
| | | | *クリスマスパーティーはありません |
| | | | *子供にはお菓子のプレゼントがあります |
| 12月25日(水) | AM10:00 | クリスマス日中のミサ | |
| 12月31日(火) | PM5:00 | タガログ語ミサ | |
| 1月 1日(水) | AM10:00 | 神の母聖マリアのミサ | 新成人祝福式 |
| 1月 5日(日) | | 主の公現 | クリスマス飾り片付け |



訃報



印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。

2024年10月30日帰天



印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。

2024年11月17日帰天



永遠の安息をお祈りいたします

2024年12月のミサの意向 (11月28日までの申し込み分)

印刷版に掲載しています。
教会入口スタンドにあります。

